

平成23年度指定管理運営業務評価票

施設名称：大阪府立花の文化園	指定管理者：花の文化園協働事業体	指定期間：平成23年4月1日 ～平成28年3月31日	所管課：大阪府環境農林水産部農政室推進課
----------------	------------------	-------------------------------	----------------------

評価項目		評価基準(内容)	自己評価(指定管理者)	評価	施設管理者の評価(所管課)	評価	評価委員会の指摘・提言
I 提案の履行状況に関する項目	平等利用が確保されるよう適切な管理を行なうための方策	(1)施設の設置目的及び管理運営方針	<p>①四季を問わず充実した植物展示と多彩な催事 樹木の成長に伴う環境の変化に対応し、日照不良となったボタン園の一部を改修し、テンナンショウ属植物の展示エリアを構築した。</p> <p>②多岐・生涯にわたる教育的役割の発揮 園長、職員による園内ガイドを数多く実施するとともに、園長による園芸基礎講座を開催した。</p> <p>③花きの振興と生産者の支援 皇帝ダリアとガーデンドリアの交配実生を育成し、新たな展示植物の開発を行った。</p> <p>④幅広い府民との協働 NPO法人フルルと協働した園の管理運営を実践するとともに、造園連大阪府支部や様々な花き関係団体・機関と連携したイベントを実施した。</p>	A	交配実生の育成により新たな展示植物を生み出し、また、植物の特徴を捉えた季節感あふれる展示を行い、指定管理者の持つ専門的な知見や技術を活用して取り組み、施設の設置目的である府内花き振興に貢献している。	A	募集時に提案された項目について、提案どおりの実施状況が認められる。 来年度以降についてもイベントの開催回数等については維持すること。
	(2)平等な利用を図るための具体的手法・効果	<p>①さまざまな利用の形態を提供する 地元のNPO法人ふるさと賛歌が主催する子どもの野外活動‘もつくる自然学校’の活動を、全プログラム12回のうち9回を園で行った。公民館が主催する子ども農園の開設と技術指導を行い、年間12回開催した。夏休みファミリーキャンプは、本年4回開催した。</p> <p>②利用しやすい施設や用具の整備 芝生広場に、輪投げやおもちゃの釣り堀、スマートボールなど手作りの簡単な遊具を設置し、子どもが楽しめる用具を整備した。</p> <p>③参加しやすい施設の整備 様々なイベントや講習会を開催することによって、幅広い年齢層が参加しやすい場面を提供</p>	A	様々な団体が活動する場として提供し、施設としての活用手段の幅を広げ、また、子供用の遊具設置やファミリーキャンプなど、子供やファミリー層に対しても利用しやすい場の提供に努めている。	A	募集時に提案された項目について、提案どおりの実施状況が認められる。	
施設の効用を最大限発揮するための方策	(3)利用者の増加を図るための具体的手法・効果	<p>①より魅力のある花の文化園を展開 レストランの直営化により、入園者の年齢層に合った和食メニューを提供できるようにした。</p> <p>②来園者にとってより利用しやすい運営 引き続いて、4月、5月を無休で開園し、来園者が利用しやすいようにした。</p> <p>③より魅力のある花の文化園を展開効果的な広報活動 園内で1日楽しんで頂けるように、ガイド、体験講習、食事をセットにした‘花満喫プラン’、遊び学べる‘子ども見学ツアー’を提案し、幼稚園、学校、福祉施設に営業活動を行った。</p>	A	レストランのメニューの追加や、時期を考慮した開園日の追加など、利用者のニーズを踏まえた取り組みを実施している。 また、自ら提案した企画を学校施設等へ新たに持ち込むなど、新規利用者の開拓に努めている。	A	募集時に提案された項目について、提案どおりの実施状況が認められる。	
	(4)サービスの向上を図るための具体的手法・効果	<p>①多彩な催事と講座、花きに関する相談と情報提供 H23年は37回の企画展示、春秋の週末コンサートなどの企画を実施した。園芸相談は約2,000件受け付けた。園内ガイドは54回(1,608人)、花きに関する講習会は43回実施した。</p> <p>②利便性の向上 河内長野市と連携し、市立駐車場の無料開放を34日間行った。</p> <p>③教育機関との連携など 小学校などに対する校外学習の充実を図るとともに、職場体験として中学生の受け入れ(5校、17人)、園芸専門学校生などの研修を実施した(21回、294人)。市内小中学校に出向いた学校ガーデニング教室を開催した(20校)。</p> <p>④利用者ニーズを把握し、運営に活かす 春と秋に各500人の入園者を対象にアンケート調査を行い、利用者ニーズを把握するとともに、運営に反映させるように努めた。</p> <p>⑤トラブル防止や苦情対処の具体的方法と管理運営への反映 危機管理マニュアル、施設点検マニュアルなどに基づき事故などの未然防止に努めた。</p>	A	独自に行う数多くのイベント開催に加えて、地元市及び教育機関との連携を図るなど、具体的な手法によってサービスの向上に努めている。 その結果、約2,000件もの園芸相談や、教育機関での様々な校外学習として受け入れを行い、教育施策にもつながる実績を残している。	A	募集時に提案された項目について、提案どおりの実施状況が認められる。	
その他管理に際して必要な事項	(5)施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	<p>①施設の保守点検 施設・設備、園路などの施設は点検マニュアルを用いて点検した。法定点検や専門性を求められる施設維持管理や検査は専門業者との委託契約により適正管理した。</p> <p>②園内の清掃 清掃職員を3名配置し、毎日清掃を実施した。植栽エリアは植栽管理の一貫として適時清掃し、園の美観を保つようにした。噴水池清掃など特殊な技術や機材を必要とする清掃は専門業者に委託して実施した。</p>	B	一般施設の施設維持管理については施設点検マニュアルに基づいて的確に点検を行い、また、特殊施設については専門業者に委託することで適正管理を行っている。	A	募集時に提案された項目について、提案どおりの実施状況が認められる。	
	(6)府施策との整合	<p>①フルルガーデン倶楽部への活動支援と協働 本年第10期の花いっぱい街づくりボランティア養成講座を開催し、40名が修了した。NPOフルルは年度末に会員数が280名になった。定例的な活動日を火、木、土の週3回に増やし、活動を充実させた。園内活動、地域活動を合わせた本年の延べ活動回数は、約8,500回になった。</p> <p>②府が主催、共催、講演する行事・イベントへの協力 花の写真コンテスト、幼児小中学生花の絵画展、洋ラン展など府が主催、共催、後援する行事に協力した。</p> <p>③府内花きの生産振興支援 花壇苗は花き生産団体と年間契約した苗を使用し、府内花きの生産振興に努めた。また、府内産花きの品評会の開催に協力した。</p> <p>④教育・福祉への協力 花育活動推進事業に協力して、花育実践者向けマニュアルの編集に参加した。春・夏の年2回、授産フェアを開催し、売店で授産品を販売するなど障がい者施策に協力した。</p> <p>⑤環境への取組 府の環境施策に協力し、照明設備を省電力仕様に変更するとともに、太陽光発電設備の導入、展示を行った。</p> <p>⑥知的障がい者の現場での雇用を実施する 知的障がい者を1名継続雇用した。</p>	A	幅広い施策分野にわたって、府の事業と密接に係わりを持ったうえで、協力体制を築いている。 特に、「フルルガーデン倶楽部への活動支援と協働」に関しては、延べ活動回数が約8,500回に達するなど非常に大きな実績を残している。	A	募集時に提案された項目について、提案どおりの実施状況が認められる。	
I 総括				A		A	

平成23年度指定管理運営業務評価票

施設名称：大阪府立花の文化園	指定管理者：花の文化園協働事業体	指定期間：平成23年4月1日 ～平成28年3月31日	所管課：大阪府環境農林水産部農政室推進課
----------------	------------------	-------------------------------	----------------------

評価項目	評価基準(内容)	自己評価(指定管理者)		施設管理者の評価(所管課)		評価委員会の指摘・提言	
			評価		評価		
のⅡ 向さら 上なる するサ ービス 事項	(1)利用者満足度調査など	①利用者満足度調査などをふまえた改善策	総合満足度UPのため、改善することが効果的と指摘された集客イベントについては、'フルルマーケット'を継続して開催し、本年は年間3回実施した。花の文化園も構成員になっている河内長野市青年事業者交流会主催の'カップリングパーティー'を園内で実施した。	A	利用者満足度調査の結果を忠実にとらえ、集客に向けた新たなイベントを企画・開催している。加えて、絶滅危惧種の保全として展示種数の増加に取り組んでいることは、施設目的も踏まえた改善策として評価できる。	A	募集時に提案された項目について、提案どおりの実施状況が認められる。
			学習講座などについては、職員による植物専門解説、園芸基礎講座を開催した。				
			植物種数の充実に関して、府内絶滅危惧植物の保全、展示種数を106種に充実させるとともに、テナンショウ属植物の見本園を設置した。				
			植物の名前など説明・案内の充実 植物ラベルの表記をAPG植物分類体系に基づくものに交換する作業を逐次行った。				
(2)その他創意工夫	①募集時提案事項以外の創意工夫の取組み	花いっぱい街づくり活動の一環として、NPOフルルが河内長野市の市民提案協働事業に応募し、市役所市民広場に花壇、ハンギングバスケットを設置した。その維持管理に新たなボランティアを誘導し、花いっぱいの地域活動を推進した。	A	施設の本来目的である府内花き振興に対し、自らの創意工夫によって地元市を巻き込んだ活動に取り組む、新たなボランティアの誘導にも繋がっている。また、外部機関との協議会の場を設け、今後の事業のあり方についても主体的に検討している。	S	新たな事業に取り組むなど、提案項目以上の実施状況が認められる。	
		'新しい公共の場づくりのためのモデル事業'を提案し、その具体化のため大阪府環境農林水産総合研究所、大阪府立大学、ハートランド株式会社、クボタサンベジファーム株式会社と共同して協議会を設立した。					
Ⅱ 総括			A		A		
盤るにⅢ 関と適 すが正 なるで な管理 能力及 び遂財 行政を 基図	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	①当初見込んでいた収入は得られているか	入園料収入は当初の計画よりも大幅に落ち込んだ。震災の影響が大きかったものと考えられ、とくに4月、5月の入園者の減少と、それに伴う入園料収入の減少が主たる要因であった。また冬季から春先にかけては低温と天候不良が続き、収入が減少した。	C	天候等の影響によって入園者数が減少することはやむを得ない部分もあるが、室内イベントの充実など、ある程度天候に左右されない策を講じることも必要と考えられる。	C	天候や震災の影響など、当初の想定が不可能な事案についてはやむを得ない部分はあるが、入園者数が減少したことの更なる分析は必要である。また、入園料の減少に伴って顧客満足度を低下するような経費削減はすべきでない。
		②経費は当初見込んでいた範囲内で収まっているか	収入の減少は電気をはじめとした光熱水費の節約と消耗品費などの削減で対応したが、管理、サービス水準維持のため管理事業、レストラン事業の賃金人件費の削減が困難であったことなどから、支出抑制だけでは対応できず、本年度の事業収支は赤字となる見込みとなった。				
	(2)安定的な運営が可能となる人的能力	①職員体制・配置	指定管理者申請時に提案した、15名体制で管理運営を行った。	B	人員体制については、募集時の提案とおりの15名体制で管理運営を実施しており、職員の啓発活動についても、外部研修へ積極的に参加することで職員育成に努めている。	B	募集時に提案された項目について、ほぼ提案どおりの実施状況が認められる。
		②職員の指導育成体制は十分か	事務研修や植物園協会が主催する植物研修など専門的な研修のほか、人権研修にもできるだけ多くの職員が参加するようになった。また、OJTにより職員の知識・技能が恒常的に醸成されるように心掛けた。				
Ⅲ 総括			C		C		